第９５号
２０１９年３月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町３－１９－３
『風』はホームページでもご覧いただけます
http://gunma-ccu.jp/
Eメール:post@gunma-ccu.jp

2月１３日(水)

はるな生協を訪問しました

施設の見学を行い、役職員との懇談会を開催しました

2月13日はるな生協と女性協議会との懇談を行いました。

関沼光好専務からはるな生協の概要説明をお聴きした後、施設の見学をしました。まず同じ建物にある歯科診療所を、田中もとみ事務長に案内と説明をしていただき、次に病院の外来、在宅福祉総合センターほほえみのデイサービス病児保育を見学しました。介護センターほほえみの杜では横井大輔施設長に案内していただき、最後に高齢者住宅虹の家を町田由記江施設長に案内していただきました。かけ足で見学しましたが、参加者は、とても勉強になったと喜んでいました。

見学後の懇談には専務の他に組合員活動部の佐藤紀代子部長、病院の佐藤久美子看護部長、町田施設長の参加がありました。

参加者からは、路上生活者への支援や、無料･低額診療、子ども食堂の取り組み、男性看護師の活躍などについて質問が出され、専務や職員の方々から丁寧な説明をしていただきました。普段は介護施設などなかなか見学できないのですが、私自身もあらためて説明を受けて、自分の所属する生協を理解するよい機会になりました。

女性協議会運営委員　吉田寿美子（はるな生協）

以前から、はるな生協の高齢者施設を見学したいと思っていました。実際に見る施設は、私の予想を超える素晴らしいもので、感動しました。採光の明るさや開放感に居心地のよい空間を感じ、入居されている方は幸せだなと思いました。

若いスタッフが責任あるポジションでキビキビ仕事されている様子は、本当に頼もしいです。また、あらためて女性が活躍する職場だと分かり嬉しくなりました。福祉の施設は地域に根ざす事がとても大事なのですね。

班の活動もまだまだ健在で、様々な組合員活動が地域に開かれて行われている様子も垣間見えました。そこにも女性パワーを感じました。

医療や福祉の現場は、労働者にとって厳しいものがあると思いますが、懇談をして施設内を見学する中で患者さん入居者はもちろん、職員も大切にされる職場と感じました。

女性協議会運営委員　木村香織（生活クラブ生協）

関沼専務

佐藤看護部長

佐藤組合員活動部部長

町田施設長

田中事務長

横井施設長

はるな生協にお越しいただきありがとうございました。

60年を超える歴史の上に立って、地域に根差した医療生協の活動をお伝えすることができて良かったです。医療の現場は以前から女性比率が高いです、近年は介護分野も含めると、男性の看護師や介護員も増えて来ています。子どもを産み育てる環境は必ずしも整っていないと感じる事もありましたが、懇談のなか他の職場に比べると恵まれた条件が多くあることも分かりました。これからもその環境を守りより働きやすい職場を目指して運営していきたいと思います。

男女共同参画について考える機会をいただきありがとうございました。

はるな生協　組合員活動部　部長　佐藤紀代子さん

2018年消費者まつりに参加　2月17日(日)

【2019年消費者まつりに参加】

～「SDGsつくる責任　つかう責任」男女共同参画から見た環境問題～

2 月17日に県庁県民ホール等で開催された、2019年消費者まつりに県連女性協議会として参加しました。

当日は全県から1,800名の来場者があり会場はイベントや買い物を楽しむ人で賑わいました。女性協の今年のテーマは、「男女共同参画から見た環境問題の意識について」アンケート活動等を行いました。「家庭であなたが実行していること」については、女性は100%以上でしたが、男性は約50%。「あなたが知っていること」についてSDGsという言葉は知っていますか？ の項目では男女とも低<50%でした。

「知っていること」の設問（SDGsとは、3Rとは、マイクロプラスチックゴミとは）の答えを参加者の皆さんに、持ち帰っていただきました。全体として男性の回答者が女性より少なかったのが残念でした。こうしたアンケートをきっかけに男女共同参画を改めて考えていただけたらと思います。たくさんの方のご参加ありがとうございました。

女性協議会運営委員　甫仮文子（群中医療生協）

JAと生協連の女性組織・フートピア２１合同交流集会が開催されました

2月25日(月)

2 月 25 日フートピア 21 交流集会が JA 女性組織協議会、JA 群馬中央会、森林組合、群馬県生協連女性協議会の4団体より28名が参加して、JA 邑楽館林本所と板倉町などで開催されました。亀里町のJAビルよりバスでJA 邑楽館林本所に移動、JA 全農や生協から持ちよった県産の材料を使ってすき焼き丼や味噌汁、煮物、サラダなどを作りました。この献立は米の消費拡大や地産地消、食農教育推進のため、JA 全農とJA 全国女性協議会が取り組んでいる「どんぶり 47 プロジェクト」の一環としての取り組み。すき焼きは森林組合が提供した上野村製の欅の丼に丁寧に盛り付けられ、さかんにカメラのシャッターを浴びていました。

午後は板倉町の根岸氏の畑で、新品種のサラダ用の人参アロマレッドの収穫を体験させていただきました。

JA 邑楽館林ミートセンターで買い物をし、亀里町までの車内では和やかに話がはずみました。JA ぐんま女性組織協議会や森林組合の方々と、行動を共にし理解を深め、楽しく交流できた１日でした。

女性協議会副会長　藤原京子（利根保健生協）

【フートピア２１に参加して】

調理実習のすき焼き丼作りでは「お肉は焼いてから入れたほうがおいしく作れるわ」「味が染みにくい物は先に煮たほうがいいね」など、より美味しくなるための調理手順をその場で話し合い協力して作りあげました。メニューにない料理も JA の女性組織協議会の委員さんがその場で作ってくれました。中でも豆まきの余った豆を砂糖掛けにしたものは絶品で、皆さんの手が止まらなくなる美味しさでした。にんじん（アロマレッド）収穫体験では計量作業も体験でき、生産者さんのお話も聞けて良かったです。調理実習や収穫体験をしながら、初めてお会いした参加者の皆さんと色々なお話や情報交換ができました。JA 邑楽館林の職員様、JA ぐんま女性組織協議会の皆様、楽しい時間をありがとうございました。

女性協議会運営委員　柳井由香里（パルシステム群馬）

2018年度中央地連
男女共同参画学習会へ運営委員４名が参加しました

2月6日(水)

２月６日 女性協議会の委員で学習会に参加してきました。今年はSDGsと男女共同参画～男女ともに地域社会との繋がりを促進するには～をテーマに国立女性教育会館事業課長櫻田さんの講演を聞きました。

私は昨年に引続き2度目の参加ではありましたが、改めてアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）は誰でもが持っている偏見だということに気付かされました。

自分のこどもに対しても 進学、就職、結婚で、「女の子なのに～」「女の子だから～」という意識がありました。しかし、今回の学びの中ではアンコンシャスバイアスがどこで現れるのかを知り意識することが影響を最小限に抑えられるのだということがわかりました。すべて最終的には 個人をみて、判断する事が最も大切であるということも学びました。

午後からは グループになり男女共同参画とSDGsに関する設問についてクロスロードゲームを用い意見交換をおこないました。和気あいあいと笑顔で進行し、アンコンシャスバイアスを知る事がいかに大切なことかを学びました。

女性協議会会長　女屋美由紀（コープぐんま）

【2018 年度男女共同参画学習会に参加して】

SDGsと男女共同参画～男女ともに地域社会との繋がりを促進するには～をテーマに櫻田さんに講演していただき、日々の生活の中にもSDGsを取り入れて生活することの大切さを学びました。そして私達が今、未来にむけて社会を知り、アンコンシャスバイアスを意識して男女のあり方を思い込みせずに多様性とそれぞれの違いを認めて新しいチャレンジをしていきたいと思いました。

午後からは各生協の参加者とグループでクロスロードゲームを行いました。大地震の時や職場、地域での対応問題を自分の考えをまとめて伝え、他の方の色々な意見を聞き、「Yes」か「No」を出し合うゲームは、偏見や男女の多様性を考える時間となりました。これからの生活の中でお互いの違いを尊重して新しい事にチャレンジをして行きたいと思う学びの１日となりました。

女性協議会運営委員　新井安子（コープぐんま）